

## 29 収入確保対策の取り組みについて

白石管林署 ○森林官 <sup>おおや さとる</sup> 大矢 智  
森林官 <sup>なら ひとし</sup> 奈良一志

### 1 はじめに

白石管林署では、さまざまな収入確保に取り組んでおり、こけし材料のミズキを安定的に供給するための分取造林を行うとともに、緑化木生産に力を入れてきた。特に後者については、平成5年よりメグスリノキの販売を行ったところ、大変な反響を呼んだ。そこで、これまでの経緯並びに現況について、報告する。

また、これまでの販売に際し、いくつかの問題が生じたが、これを踏まえ、さらに今後の業務の円滑化を図るため、メグスリノキの購入者に対してアンケート調査を行ったが、その結果も述べる。

### 2 経緯及び現況

#### (1) 経緯

メグスリノキは、宮城県や山形県より南の地方に自生しているカエデ科の落葉高木で、材質は白色でかたく、家具材、建築材、薪炭材などに使用される日本固有の種である。



写真-1 メグスリノキ

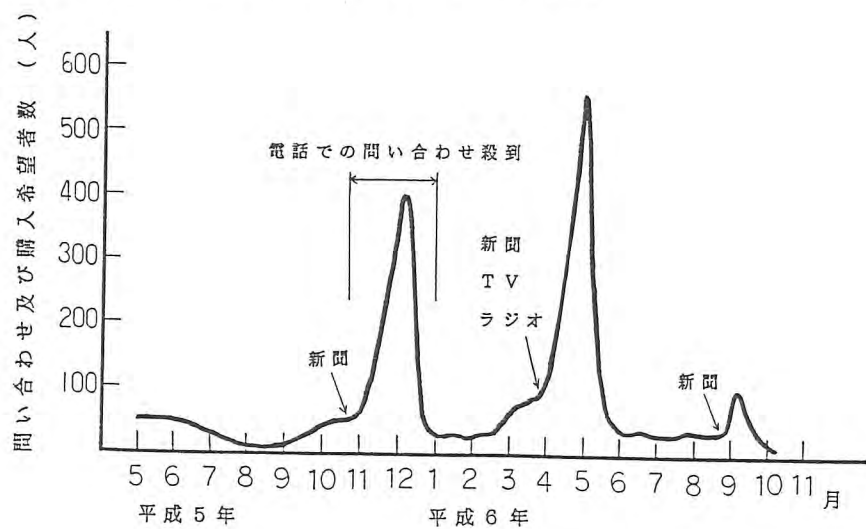
メグスリノキは、当白石管林署管内でも多くみられ、秋には美しい紅葉を見せている。しかし、スギの造林地内に進入しており、除伐対象木となっている（写真-1）。

ところで、メグスリノキは、紅葉の美しい木であるため、庭木としてなかなか人気がある。また、チョウジャノキという異名があり、樹皮等を煎じて飲めば、目や肝臓に効き目があるとも言われている。

そこで、メグスリノキを単に伐るのではなく、それを販売することを計画した。すなわち、収入確保とともに、森林整備にも資するという一石二鳥の効果をねらい、その販売を平成5年より行った。

ただ、始めは、地域のイベントなどに登場させ売り出しても、ドウダンやコブシなどに比べて人気がなく、売れ残る始末であった。しかし、平成5年11月下旬に、地元の新聞に、営林署が緑化木として売り出しているこ

図-1 問い合わせ及び購入希望者数の推移



とが紹介されたところ、木の名前の珍しさに、昨今の健康ブームも手伝ったのか、一躍話題となった。

また、平成6年には売り出し前に、TVなどに取り上げられたところ、平成5年を上回る人気を呼び、注文に応じきれないほどの状態になった。

それらの経過は図-1に示した通りである。

なお、取材の際には、メグスリノキの販売は、除伐対象木の有効活用であることを強調するなど、林業の実際のPRに努めた。

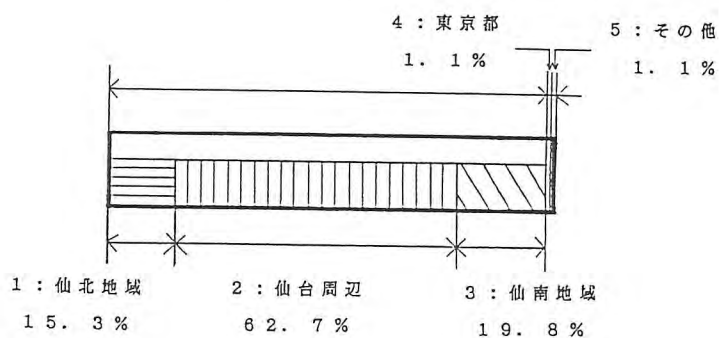
## (2) 問題点

### ア 販売方法

平成6年は、初年度である平成5年の反省に立ち、販売方法を幾分変更した。

すなわち、平成5年には、電話での注文にも応じたために、連日、営林署に電話が殺到したこと、宅配便での配送を希望される方にはそれに応じたこと等により、メグスリノキの販売により通常の業務に差し支える面も見受けられた。

図-2 購入希望者の分布状況 (総数555名)



そこで、平成6年には注文の受付を電話ではなく、往復葉書に限定するとともに、引き渡し日を設定し、その日に注文者に営林署まで取りにきていただくこととした。

なお、購入希望者は白石近辺のみならず、宮城県全域や、福島県、遠くは関東方面の方もいた(図-2)。そこで、購入者の受け取りの便宜を図るため、仙台営林署、古川営林署の御協力を得て、仙台、古川の両営林署にも、メグスリノキを輸送して、販売した。

### イ 販売本数

平成5年には新聞報道が契機となって2日で約200本を好評のうちに完売したが、前述のように、平成6年には売り出し前に大きくマスコミに取り上げられていたので、前年を上回る反響を予測し、前年より多い300本を用意した。

しかし、ふたをあけてみれば、反響は予測をさらに超え、実に550名余りの方より約1200本の注文をいただいた。

そこで、不足分を補うため、急きよ追加の作業を行って、本数の確保を図った。しかし、注文本数を完全に確保することはできず、結局一人一本の限定販売に変更せざるをえなかった。

## 3 費用

国有林内に生育しているメグスリノキを1本1本、根より掘り起こし、土ごと根をこもで巻いて梱包した後、大型トラックで営林署まで運び、一旦保管した後、購入予約者に引き渡したので、それらの費用が販売にともなっている。その概数を表-1にまとめた。

なお、メグスリノキの梱包、搬出に要した作業員の述べ人数<sup>1)</sup>は54人・日であるが、メグスリノキの搬出作業は除伐と兼ねているので、これを特に計上していない。

<sup>1)</sup>：実行面積は4.75haで、当地では通常、約35人・日を要する

表-1 販売費用(平成6年)

梱包・搬出費用	
こも・なわ代	100,000円
流通費用(大型トラック)	
ガソリン代	10,000円
人件費	80,000円
	(5日分)
総額	190,000円

注：いずれも概数

販売本数は555本

また、営林署での引き渡しは、署員が通常の業務の合間に行ったので、これについても特に計上していない。

売上(312万円)からこれらの費用を差し引いたものが、営林署があげた純益であるが、290万円余りとなる。

#### 4 アンケート結果

上述のように、これまでの販売に際し、いくつかの問題が生じたが、これを踏まえ、さらに今後の業務の円滑化を図るため、メグスリノキの購入者に対し、アンケート調査を行った。

アンケートはメグスリノキの購入者より無作為に60名選択し、アンケート用紙を送付して、それに記入してもらったが、28名の方より回答をいただいた。

なお、このアンケートは、当管林署がメグスリノキの販売にともなって行った、林業のPRが一般の方への程度、浸透したかを確認することも目的とした。

アンケートの結果、いくつか特徴的なことが浮かび上がってきたので、以下、それについて述べる。

購入者は男性19人、女性9人と、男性が女性の2倍以上おり、またその平均年齢は、男性56歳、女性51歳と、男性の方が明らかに高かった。

また、購入者がいつ、メグスリノキを知ったかであるが、60%以上の方が、マスコミ報道で知ったと回答している(図-3)。マスコミの力を改めて感じさせられた。なお、マスコミのうち、新聞で知ったという方が、テレビで知ったという方の3倍以上いた。

価格については、「安い」という方が10%程度で、後は「高い」と「適当」という回答が半々であった(図-4)。白石管林署では、高さ1m50cm程度の木を平均で1本5,000円で販売したが、これは森林組合などで売られている価格(20cm程度で1000円位)と比べ、安いように思われるので、アンケートの結果は少し意外であった。ただ、高くてもいいから、太い木が欲しいとの意見も寄せられていた。

なお、半分近くの方が、再募集の際には買うと答えており、潜在需要が依然大きいことがわかった(図-5)。なお、こ

図-3 メグスリノキのことをいつ知ったか

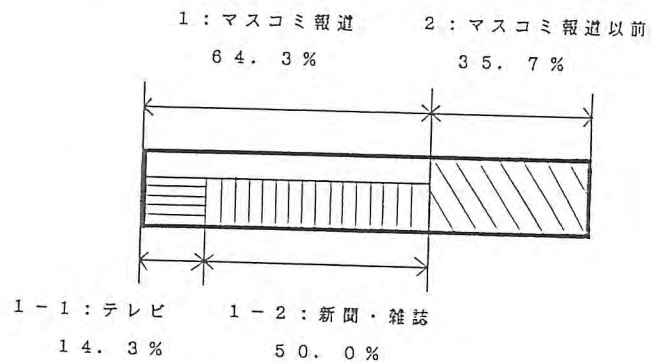


図-4 価格は適当であったか

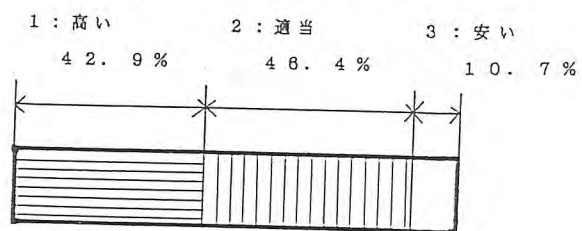
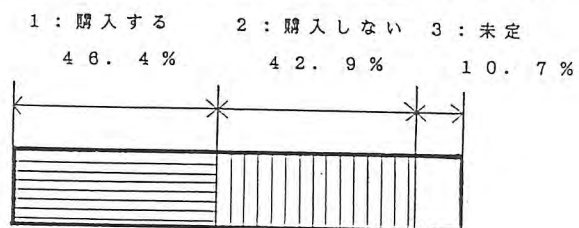


図-5 再募集を行った際には、購入するか





の質問に対しては、購入すると回答したものの「価格による」とただし書きをした方や、「もう植える場所がないため」購入しないと回答した方がいた。

購入目的についての質問に対しては、80%以上の方がメグスリノキの薬効に興味があったと回答していた。これは、マスコミ報道ではメグスリノキの薬効について触れており、また健康雑誌でも眼や肝臓に効き目があるとされていることが影響していると思われる。なお、平成6年4月に、宮城県薬事課より「薬として販売しているのか」との問い合わせがあった。この際にも白石営林署としては、メグスリノキはあくまでも緑化木であるとして販売していると回答した。

なお、このアンケートを行った際には、アンケート用紙とともに、営林署が育成・管理している森林の働きについての参考資料を送付し、森林・林業へのPRを行った。

## 5 おわりに

いろいろと手探りの中であり、混乱もあったが、メグスリノキの販売は大きな反響を呼び、成功を納めた。このような取り組みを通じ、国有林への一般の方の関心が高まったと思われる。

例えば、アンケートに国有林に望むことを記してもらったところ、森林の公益的な機能を守ること、森林レクリエーションや山菜の販売などの森林利用の充実を求めるとの意見が寄せられた。また、メグスリノキの購入を契機に、森林に興味を持ち、森林の存在により知らず知らずのうちに、恩恵を受けていたことを知ったとの感想も寄せられた。

一方、このアンケートに先立って、メグスリノキの購入者に対し、分収育林の公募のパンフを送付したところ、これにより8名の方より、分収育林の応募を得た。

このように、メグスリノキの販売は、単なる収入確保策にとどまらず、森林の整備や国有林事業への関心の糸口にもなり、複合的に発展した。近年、環境重視の機運が高まっている。こういった中、森林を守り育てることの重要性をもっとアピールしていくことが重要であると思われる。そして、それは必ずしも大々的なものである必要もなく、折に触れて行っていけば必ず報われるものであると思われる。

今回のアンケートにおいて、メグスリノキのことを以前から知っていたと言う方の半分は、友人知人から聞いていた。マスコミの力も大きいですが、それは一方通行の情報であるため、一過性のブームになりやすい。しかし、友人知人を通しての情報は相互関係があるため発展が期待できる。今回、メグスリノキの購入を通じて、森林・林業に興味を持った方は、メグスリノキの話とともに、森林への理解を他の方に広めてくれるのではないだろうか。メグスリノキの販売に携わった当営林署の職員は、そう期待している。

なお、当営林署では、今回の経験を生かし、第2、第3の「メグスリノキ」の発掘、ひいては販売を目指している。